

極東国際軍事裁判

資料目録

關西大學図書館

昭和47年

極東国際軍事裁判資料目録

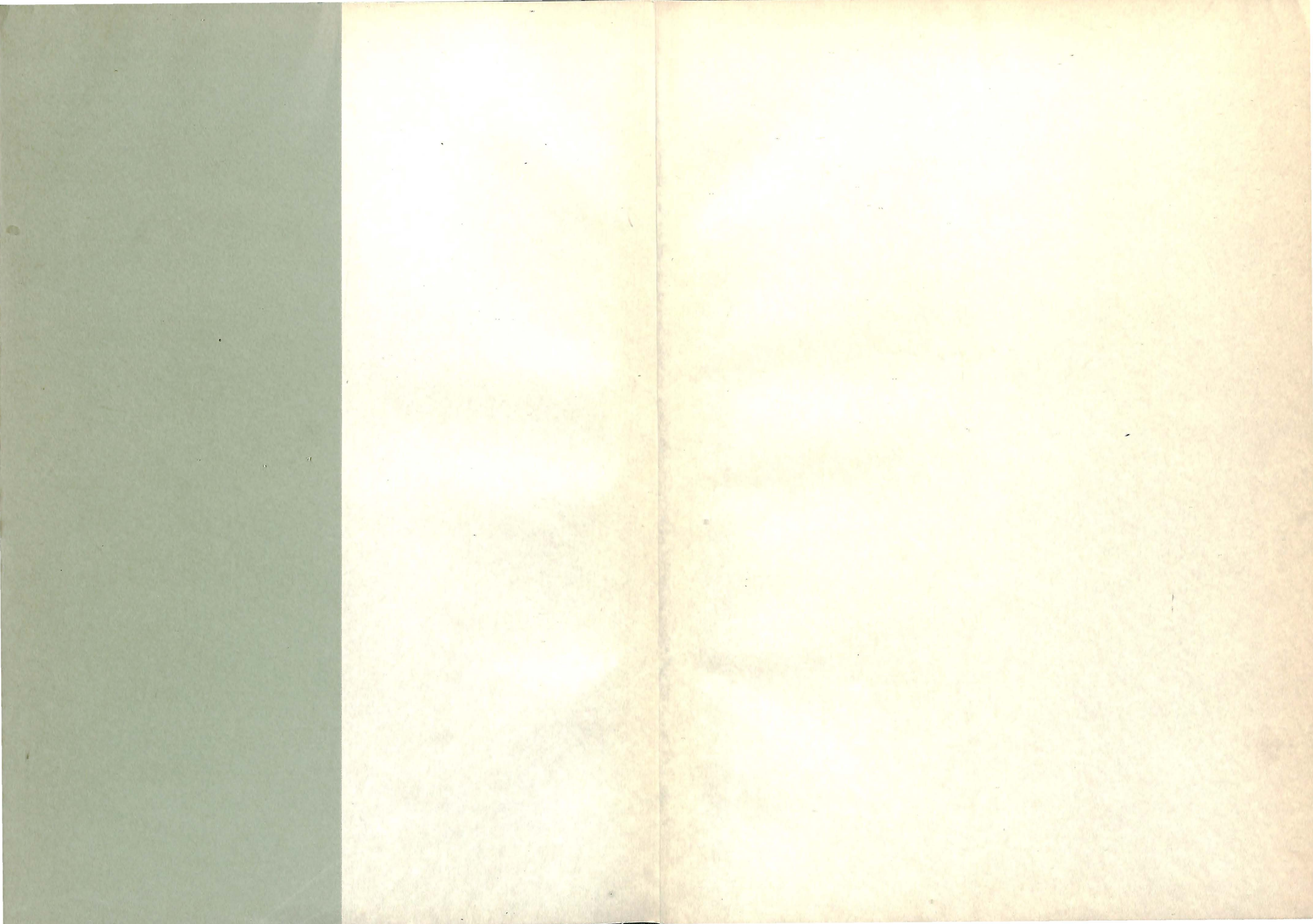
極東国際軍事裁判

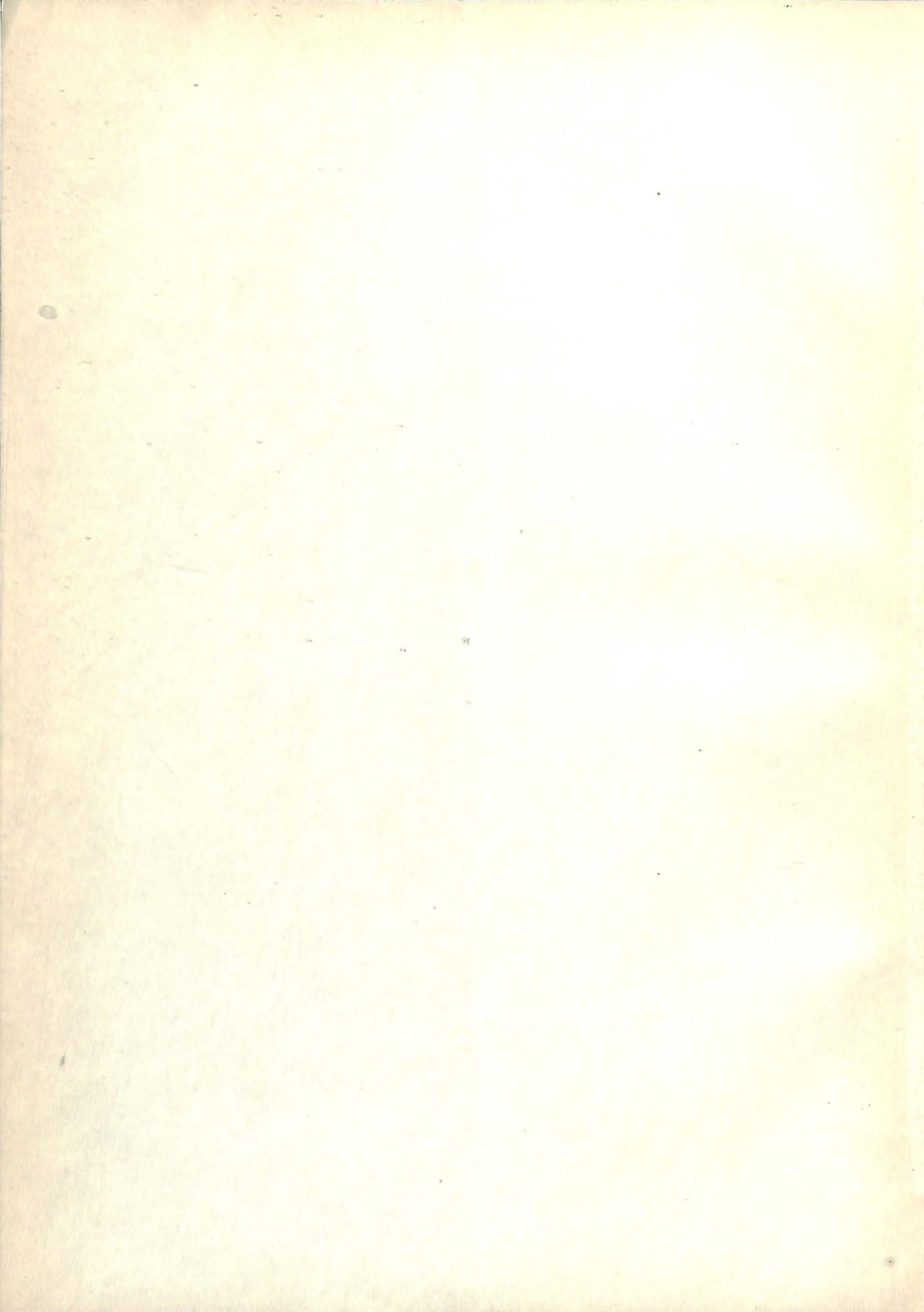
資料目録

昭和四十七年

關西大學図書館

昭和47年





極東国際軍事裁判
資料目録

關西大學図書館

昭和47年

序

このたび本学所蔵の極東軍事裁判記録の目録が刊行される運びになったことはご同慶の至りであります。

本記録は昭和26年3月に極東軍事裁判A級戦犯、武藤章被告の特別弁護人、岡本尚一弁護士から無償で寄贈されたものであります。岡本氏は本学名誉教授、故藤沢章次郎氏と旧知の間柄にあられ、また川上敬逸教授とも親交があり、この縁故と故石浜純太郎名誉教授のご懇請によって寄贈の運びに至ったのであります。その後、川上教授の手もとで東西学術研究所スタッフのご努力で速記録の整理が完了され、その他の資料は昭和42年夏季休暇から平井友義教授が学生有志の協力のもとに着手され、昨年の夏季休暇も返上して完成していただきました。最後の目録作成の作業は大国克子が当たりました。

ここに大学当局の理解ある支援に感謝するとともに、直接間接に本目録完成にご援助たまわった諸氏に深謝する次第であります。

昭和47年2月

關西大學図書館長、

見 次 直 雄

編 者 序

本目録は、作業を始めた段階では最もよく整理された極東国際軍事裁判に関する資料目録であった法務大臣官房司法制調査部編「極東国際軍事裁判書証一覧表」および「極東国際軍事裁判関係資料目録」を基本的フレームとして作製されたものである。したがって、書証および資料（撤回、延期、未提出および却下証拠）については法廷の日付順に、かつ訴因毎に分類されており、前記目録に収録されていない故岡本弁護人所蔵にかかる個人的資料は、被告および事件毎にアト・ランダムに整理されている。また書証その他の内容を要約した見出しについては、朝日新聞調査研究部編「極東国際軍事裁判記録及び索引」（1952年）をも参照させていただいた。

その後、これらの資料の完全な収集、整理の努力がさらに進み、東京大学社会科学研究所編「極東国際軍事裁判記録：検察側証拠書類目録」（1971年）、法務大臣官房司法制調査部編「極東国際軍事裁判資料目録」（昭和46年3月）のような見事な成果が生まれている。こうした現状からみると、われわれの作業はきわめて不十分なものであることは否めないが、ここでは、長く本学図書館の一隅に空しく積み重ねられていた資料を一応閲覧しうる状態に置くことにとどめ、将来さらに資料の補充によって決定版の完成をめざすつもりである。

最後に、本目録の作製にあたって種々御配慮を賜った現法務大臣官房司法制調査部参与・豊田隅雄氏、昭昭42年、43年、46年の夏季休暇を返上して、酷暑のなかで協力の労を惜しまなかった多くの法学部・文学部学生有志、および図書館員の方々に心より御礼を申し上げます。

1972年2月

關西大學法学部教授

平 井 友 義

凡 例

1. この目録は、法務大臣官房司法法制調査部編「極東国際軍事裁判書証一覧表」および「極東国際軍事裁判関係資料目録」をもとに作成した「極東国際軍事裁判資料目録」である。但し、積極的な収集を行なわなかったために生ずる資料の不足および資料内容の検討不十分のため、今回の目録は未定稿として扱うものである。
2. 本目録は、法廷の日付順に分類された「書証一覧表」「関係資料：撤回、延期未提出および却下」および被告並びに事件毎に分類された「弁護資料」の3部よりなる。
3. 本学図書館所蔵の資料には請求記号を付した。
4. 請求記号のL Fは「極東国際軍事裁判資料」の別置記号である。
5. 目次に使用した（ ）は、再出を示すものである。
6. 付号・略語
 - 「～より～宛」を表わす
 - 電 電報
 - 書 文書
 - 報 報告

目 次

書 証 一 覧 表

検察側立証段階

基本文書	3
人事録	9
戦争準備ノ為ノ輿論及政治ノ編成替	11
満洲軍事侵略	13
対支武力侵略	15
南京虐殺事件	16
（満洲軍事侵略）	16
（対支武力侵略）	19
満洲国建国事情	21
（南京虐殺事件）	22
中国各地ニ於ケル残虐事件	24
阿片及麻薬問題	26
対支経済侵略	
満洲	31
中国	32
泰	33
シンガポール俘虜虐待	34
（対支経済侵略）	34
（シンガポール俘虜虐待）	34
日独伊関係	
防共協定	34
「トラウトマン」居中調停	35
枢軸諸国ノ防共協定参加	36
第一次軍事同盟	36
三国同盟準備	37
三国同盟下ノ提携	40
経済提携	43
単独不講和協定	43
満洲ニ於ケル残虐行為	44
仏印関係	
北部仏印進駐	44
南部仏印進駐	46
経済協定	48
武力処理	48
日ソ関係	49

経済及財政ノ準備	63
戦争準備	64
日英米関係	67
日蘭関係	93
日比関係	
比島ニ於ケル B・C 級犯罪	98
戦争法規違反、人道ニ対スル罪	
B 級犯罪	107
個人責任関係	
大川周明被告	120
橋本欣五郎被告	120
土肥原賢二被告	121
板垣征四郎被告	121
南次郎被告	121
梅津美治郎被告	122
小磯国昭被告	122
荒木貞夫被告	122
星野直樹被告	122
広田弘毅被告	122
平沼騏一郎被告	122
大島 浩被告	123
（大川周明被告）	123
白鳥敏夫被告	123
佐藤賢了被告	123
武藤 章被告	123
木村兵太郎被告	123
嶋田繁太郎被告	123
木戸幸一被告	124
（荒木貞夫被告）	124
弁護側反証段階	
一般関係	125
満洲関係	132
支那関係	139
（満洲関係）	146
（支那関係）	146
ソ聯関係	147
（一般関係）	156
（支那関係）	156
太平洋関係	

三国同盟関係	156
(一般関係)	
(三国同盟関係)	160
(太平洋関係)	
経済関係	160
外交関係	168
海軍関係	175
陸軍関係	178
俘虜関係	180
(三国同盟関係)	187
(陸軍関係)	188
(支那関係)	188
(ソ聯関係)	188
(太平洋関係)	
(俘虜関係)	188
個人関係	
荒木貞夫被告	188
土肥原賢二被告	190
橋本欣五郎被告	191
畑 俊六被告	191
星野直樹被告	192
平沼騏一郎被告	193
広田弘毅被告	194
(畑 俊六被告)	194
(広田弘毅被告)	194
板垣征四郎被告	198
賀屋興宣被告	200
木戸幸一被告	202
木村兵太郎被告	202
(日ソ関係=檢察側立証)	204
小磯国昭被告	204
(ソ聯関係=檢察側立証)	206
松井石根被告	206
南 次郎被告	207
武藤 章被告	210
岡 敬純被告	212
(南 次郎被告)	213
(武藤 章被告)	214
大島 浩被告	214
(松井石根被告)	215
(大島 浩被告)	215
佐藤賢了被告	217
重光 葵被告	218
嶋田繁太郎被告	219

白鳥敏夫被告	221
鈴木貞一被告	222
東郷茂徳被告	223
東条英機被告	226
梅津美治郎被告	229
(一般関係)	
(経済関係)	230
(個人関係)	
(荒木貞夫被告)	231
(広田弘毅被告)	231
(嶋田繁太郎被告)	231
(星野直樹被告)	231
(大島 浩被告)	232
(一般関係)	
(ソ聯関係)	232
(個人関係)	
(東郷茂徳被告)	232
(一般関係)	
(支那関係)	232
檢察側反駁立証段階, 弁護側再反駁立証段階	
檢察側反駁立証段階	233
弁護側再反駁立証段階	
荒木貞夫被告	248
畑 俊六被告	248
広田弘毅被告	249
木戸幸一被告	250
南 次郎被告	250
武藤 章被告	250
大島 浩被告	250
小磯国昭被告	250
東条英機被告	250
白鳥敏夫被告	250
重光 葵被告	251
板垣征四郎被告	251
東郷茂徳被告	251
ソ聯関係	251
梅津美治郎被告	251
(大島 弘被告)	251
減刑証拠: 木戸幸一被告	252

関係資料

「撤回」「延期」「未提出」資料

検察側立証段階

基礎的資料	255
日本ノ国家組織	255
日本世論ノ戦争ヘノ準備	255
奉天事件オヨビ直後	257
満洲国	258
蘆溝橋事件以前	259
蘆溝橋事件オヨビ直後	259
外交関係	259
中国ニ於ケル残虐行為、麻薬使用	259
対支経済侵略	260
三国同盟条約	261
単独不講オヨビ軍事協定	261
北部仏印侵略	261
泰国侵略	261
南部仏印侵略	262
「シベリヤ」ニ対スル野望	262
国境事件	262
独伊トノ対ソ共同謀議	262
経済的準備	262
米英トノ交渉	262
華府ニオケル日米交渉	263
太平洋戦争開戦	264
和蘭ニ対スル侵略	264
日本軍ニヨル残虐行為	264
日本政府ニ対スル抗議ト回答	264
俘虏取扱ニ対スル日本政府ノ態度ナラビ ニ公式報告	264
個人別追加証拠提出	264

弁護側反証段階

日本憲法ソノ他ノ諸法規	265
諸条約オヨビ諸国家ノトツタ行動声明	266
外交上ノ責任、個人的責任ノ免除ト訴追 サレテイル犯罪ノ証拠	267
日本ノ政治機構ト被告ノ共同謀議ノ存在 シナイ証拠	272
八紘一字、東亜新秩序、大東亜共栄圏ニ ツイテ	273
反共主義、宣伝ノ観点カラノ日本ノ内外 事情	274
奉天事件前ノ諸問題	274

奉天事件	278
第一次上海事変	280
満洲建国	280
満洲国ノ国際的諸問題	281
満洲国ノ国内的諸問題	282
蘆溝橋事件	283
中共ノ活動ト排日運動	284
第二次上海事変	289
南京攻略ト平和ヘノ努力	291
漢口作戦トソノ後	292
中国新政権	294
防共協定	295
張鼓峰事件	297
ノモンハン事件	298
ソ連ニ対スル日本ノ軍事計画	299
中立条約ト中立問題	299
三国同盟	299
対日圧迫	305
日米交渉	313
海軍	321
陸軍	322
俘虏オヨビ被抑留者ノ待遇	323

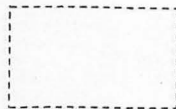
個人弁論段階

荒木貞夫	326
土肥原賢二	330
橋本欣五郎	331
畑俊六	331
平沼騏一郎	331
広田弘毅	331
板垣征四郎	336
賀屋興宣	336
木戸幸一	337
木村兵太郎	338
小磯国昭	338
松井石根	338
南次郎	339
武藤章	339
岡敬純	339
大島浩	339
佐藤賢了	339
重光葵	339
白鳥敏夫	339
東条英機	340
梅津美治郎	340

検察側反証段階	
板垣征四郎	341
原田日記	341
俘虜ノ待遇	341
対ソ侵略ニ関スル追加証拠	341
弁護側再反証段階	
橋本欣五郎	342
畑 俊六	342
広田弘毅	342
白鳥敏夫	343
重光 葵	343
「却下」資料	
検察側立証段階	
対ソ侵略	344
弁護側反証段階	
外交上ノ責任、個人的責任ノ免除ト訴追	
サレテイル犯罪ノ証拠	344
日本ノ政治機構ト被告ノ共同謀議ノ存在	
シナイ証拠	345
八紘一字、東亞新秩序、大東亞共栄圈ニ	
ツイテ	345
反共主義、宣伝ノ観点カラノ日本ノ内外	
事情	345
奉天事件前ノ諸問題	346
奉天事件	347
満洲建国	347
満洲国ノ國際的諸問題	348
満洲国ノ国内的諸問題	348
蘆溝橋事件	348
中共ノ活動ト排日運動	351
第二次上海事変	356
南京攻略ト平和ヘノ努力	357
漢口作戦トソノ後	357
中国新政権	359
防共協定	359
張鼓峰事件	361
ソ連ニ対スル日本ノ軍事計画	361
中立条約ト中立問題	361
三国同盟	361
対日圧迫	363
日米交渉	373
海 軍	374
陸 軍	374
俘虜オヨビ被抑留者ノ待遇	374

個人弁論段階	
荒木貞夫	375
平沼騏一郎	379
広田弘毅	380
板垣征四郎	381
賀屋興宣	382
木戸幸一	382
小磯国昭	382
松井石根	382
南 次郎	383
武藤 章	383
大島 浩	383
重光 葵	383
梅津美治郎	383
検察側反証段階	
広田弘毅	383
木戸幸一	383
板垣征四郎	383
武藤 章	384
岡 敬純	384
原田日記	384
白鳥敏夫	386
東郷茂徳	386
嶋田繁太郎	386
対ソ侵略ニ関スル追加証拠	387
弁護側再反証段階	
荒木貞夫	388
橋本欣五郎	388
畑 俊六	388
広田弘毅	389
木戸幸一	389
松井石根	389
大島 浩	389
小磯国昭	389
板垣征四郎	390
東郷茂徳	390
弁 護 資 料	
荒木貞夫被告	393
土肥原賢二被告	393
橋本欣五郎被告	393
畑 俊六被告	393

星野直樹被告	393	鈴木貞一被告	404
平治騏一郎被告	393	東郷茂徳被告	404
板垣征四郎被告	393	東条英機被告	405
木村兵太郎被告	393	一般	
松井石根被告	393	満洲関係	405
南 次郎被告	394	中国関係	407
武藤 章被告	394	ソ連関係	410
大島 浩被告	402	太平洋戦争関係	410
佐藤賢了被告	403	ソノ他	413
重光 葵被告	403	東海地方空襲関係	422
白鳥敏夫被告	404		



極東国際軍事裁判資料目録

昭和47年3月25日発行

關西大學図書館

大阪府吹田市山手町

印刷 大阪市都島区都島北通2丁目23番地
株式会社 原多成文社

